

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
東京IT会計公務員専門学校 千葉校		平成18年10月10日		林 清隆		〒 260-0045 (住所) 千葉県千葉市中央区弁天1-6-2 (電話) 043-207-5611			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人立志舎		平成10年10月30日		塚原 一功		〒 130-8565 (住所) 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5441			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程		ITビジネス学科		平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的		学校教育法に定める専修学校制度の趣旨に則り、ソフトウェア開発の基礎技術に関する正しい知識と的確な技能を授け、もって職業や実生活に必要な能力を養成し教養を向上させることを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		ITビジネス学科では、入学後半年でシステムエンジニア・プログラマの就職に強い国家資格である基本情報技術者試験を取得し、その上の応用情報、高度情報の取得をめざす。また、コンピュータの基礎知識、プログラミングスキル、あらゆるIT技術を使い、さまざまな場面で活躍できるITのプロフェッショナルな人材育成をめざす。取得可能な資格は、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、C言語プログラミング能力認定試験、Javaプログラミング能力認定試験、Webクリエイター能力認定試験など。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,720 単位時間 86 単位	1,060 単位時間 53 単位	3,500 単位時間 175 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	
	生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
88 人		88 人		0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		46 人						
	■就職希望者数(D)		44 人						
	■就職者数(E)		44 人						
	■地元就職者数(F)		8 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		18 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	就職内定辞退2名								
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等									
(令和6年度卒業生)									
富士ソフト、旭情報サービス、DTS、NCS&A、高速道路トールテクノロジー、千葉県JA情報センター、空港情報通信等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
評価団体: 無		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	URL: https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,720 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				600 単位時間				
	うち必修授業時数				80 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				80 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				86 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				30 単位				
うち必修単位数				4 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				0 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				4 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者				(専修学校設置基準第41条第1項第1号) 4 人				
	② 学士の学位を有する者等				(専修学校設置基準第41条第1項第2号) 1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者				(専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位				(専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人				
	⑤ その他				(専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人				
	計				5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。教育課程編成委員会は業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
2. カリキュラム作成委員会は「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の提言を十分に活かしカリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
加藤 雅士氏	一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 理事	令和6年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	①
長谷川 剛氏	株式会社スリーエスコンサルティング 常務取締役	令和6年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
大野 雅一	東京IT会計公務員専門学校千葉校 次長	令和7年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
石橋 三男	東京IT会計公務員専門学校千葉校 教務部課長	令和7年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月・12月)

(開催日時(実績))

第23回 令和6年8月26日 14:00～15:30

第24回 令和6年12月16日 14:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ渦直撃で育ってきた社員の研修を行ったが、話し合いや深掘りする力がとても弱い。ただ指示されたことをこなすだけでなく、例えばコーディングをするなら、書き終わった際にこのコードでいいのか、もっといい書き方はないかななどの深堀をさせることが大事。いわゆるクリティカルインキングを身に付けさせるようなことができるとうと良い。(加藤 委員)

若い社員は他人とのコミュニケーションを避ける人が多い。その中でも特にクレーム処理ができない人が非常に多い。システム開発演習で担任以外の先生からクレームが入るようなシチュエーションを作ってみたり、開発状況をあえて間違った方向にもっていき、そこから修正していくためにはどうすればいいのかなど、イレギュラーな状況を演習の中に盛り込んでみて

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT関連産業の中にあつて、特定の分野に偏ることなく、最新の業界全体の動向を把握しうる業界団体または企業を選定して連携する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・IT業界と期待される人材像について講義を受け、レポートを作成する。自己分析も行い、事前打ち合わせに従い㈱インフォテック・サーブの助言を受けつつ、成績評価・単位認定を行う。
- ・システム開発について講義を受け、レポートを作成する。業界研究、職種の研究も行い、事前打ち合わせに従いコムシステクノ㈱の助言を受けつつ、成績評価・単位認定を行う。
- ・システム概要とMVCアーキテクチャについて講義を受け、アルゴリズム、データベースの知識を習得する。グループワークで課題に取り組み、コミュニケーション能力を育む。事前打ち合わせに従い㈱インフォテック・サーブの助言を受けつつ、成績評価・単位認定を行う。
- ・ユーザ(連携企業)からの発注を受ける形で、システム開発を行う。基本的なドキュメントから、Java言語によるソースコードの作成、テスト、レビューまで、実践的なシステム開発を行い、一連の流れや必要となる知識を習得する。事前打ち合わせに従い㈱インフォテック・サーブの助言を受けつつ、成績評価・単位認定を行う。
- ・ユーザ(連携企業)からの追加発注を受ける形で、システム開発を行う。企画書や設計書などのドキュメント作成から、開発、テスト、レビューまで、実践的なシステム開発を行い、ユーザに対して成果物のプレゼンテーションを行う。事前打ち合わせに従い㈱インフォテック・サーブの助言を受けつつ、成績評価・単位認定を行う。
- ・上長から業務命令(連携企業)を受ける形で実施する。大量の業務データから資料を作成し、データ分析を行い、業務改善案を検討する。最終的にデータの分析結果と業務改善案のプレゼンテーションまで行う。課題はすべてグループワークで

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
システム開発Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業と連携しながら、システム開	株式会社インフォテック・サーブ
システム開発Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業と連携して、IT業界やシステム	コムシステクノ株式会社
情報分析演習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	データや情報を適切に分析・加工す	株式会社インフォテック・サーブ
システム開発演習Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業と連携しながら、システムを開	株式会社インフォテック・サーブ
システム開発演習Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業と連携しながら、ドキュメントの	株式会社インフォテック・サーブ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人立志舎 教員研修規定」において、以下のように定める。

- 1 研修は、教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術および技能並びに、指導力の修得・向上を目的として行う。
- 2 研修は教員に対して行い、個々の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて実施しなければならない。
- 3 学園は、教員の研修計画を策定・実施し、教員に研修を受講する機会を与えなければならない。
- 4 学園が必要と認められる場合は、他の企業等の関係機関と連携し研修を行うことができる。
- 5 教員は、学園が定めた教員研修計画に従い、研修目的を達成するため研修を受講しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	生成AI活用とセキュリティのシレンマ 情報の漏洩とマルウェアの脅威から企業を保護する方法 とは	連携企業等: 株式会社アシスト
期間:	令和6年12月9日 12:00 ~ 13:00	対象: 近藤 蓮
内容	生成AI利用から考えられるリスクに対する対策ツールを実演形式で2点ほど確認した。 ①DLP(Data Loss Prevention) ②RBI(Remote Browser Isolation)	
研修名:	生成AIビジネスの現状	連携企業等: NTTデータ先端技術株式会社
期間:	令和6年12月12日 16:00 ~ 17:00	対象: 木原 貴弘
内容	(1)生成AIビジネスの現状 ・AI技術の市場動向 ・SI変革の具体的な要求 (2)生成AIの適用事例 (3)生成AIの検討の進め方	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	人権問題研修	連携企業等: 東京都人権啓発センター
期間:	令和6年12月24日(火) 16:00 ~ 17:00	対象: 全職員
内容	人権問題研修 「LGBT及び障害者差別の解消」	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるかを検証するため学校関係者評価を原則として年1回実施し、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は、定められているか ・育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか ・理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ・社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか
(2)学校運営	・理念に沿った運営方針を定めているか ・理念等を達成するための事業計画を定めているか ・設置法人は組織運営を適切に行っているか ・学校運営のための組織を整備しているか ・人事・給与に関する制度を整備しているか ・意思決定システムを整備しているか ・情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか
(3)教育活動	・理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか ・学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか ・教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ・教育課程について、外部の意見を反映しているか ・キャリア教育を実施しているか ・授業評価を実施しているか ・成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか ・作品及び技術等の発表における成果を把握しているか ・目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか ・資格・免許取得の指導体制はあるか ・資格・要件を備えた教員を確保しているか ・教員の資質向上への取り組みを行っているか ・教員の組織体制を整備しているか
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格・免許取得率の向上が図られているか ・卒業生の社会的評価を把握しているか
(5)学生支援	・就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ・退学率の低減が図られているか ・学生相談に関する体制を整備しているか ・留学生に対する相談体制を整備しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ・学生の健康管理を行う体制を整備しているか ・学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか ・課外活動に対する支援体制を整備しているか ・保護者との連携体制を構築しているか ・卒業生への支援体制を整備しているか ・産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか
(6)教育環境	・教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか ・防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ・学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか

(7) 学生の受入れ募集	・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか ・学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか ・入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか ・経費内容に対応し、学納金を算定しているか ・入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか
(8) 財務	・学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ・学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか ・教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか ・予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか ・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ・私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9) 法令等の遵守	・法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ・自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ・自己評価結果を公表しているか ・学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか ・学校関係者評価結果を公表しているか ・教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・国際交流に取り組んでいるか ・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・自己評価委員会でまとめた評価につき、学校関係者評価委員会の委員の方から受けた指摘について次のように改善をしてきた。

① 学務システムは仮想プライベートネットワーク(VPN網)を全拠点で結び、セキュリティを強化して運用している。また、全職員にパソコンを貸与し、業務改善に取り組んでいる。就職部では求人情報をデータベース化して業務の効率化を図って

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
井野崎 徹也	立志舎高等学校 教頭	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	高校関係者
飯島 賢治 氏	株式会社 エスペシャリイ 営業部 部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界関係者
加藤 雅士 氏	株式会社目標管理トレーニング 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界関係者
黒川 千尋 氏	一般社団法人日本鉄鋼協会 経理グループ	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生
高地 優輔 氏	社会福祉法人榎の里 いすみ学園	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生
塚本 充裕 氏	株式会社アトス・インターナショナル 管理部	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界関係者
中村 直孝 氏	司法書士・行政書士にしき事務所 代表	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界関係者
東村 舜 氏	富士ソフト株式会社 ソリューション事業本部	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生
増田 智光 氏	さいたま行政書士合同事務所 代表	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界関係者
飯田 明 氏	飯田明公認会計士事務所 所長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://all-japan.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和7年6月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・目的、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在学学生数 ・授業計画表(シラバス) ・進級・卒業の要件等 ・取得資格、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数 ・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等の取組状況 ・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動
(6)学生の生活支援	・学生相談室、就職相談室
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	・事業報告書、計算書類、監査報告、財産目録
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ
(11)その他	・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://all-japan.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

	(工業専門課程 ITビジネス学科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			就職ゼミナールⅠ	卒業後の進路選択を考える前段階として、職業についての考え方、企業研究や自己分析の仕方を学び、企業と連携した授業を行う。また、社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方、行動の仕方を理解し、礼儀・マナーについても学ぶ。	1年前期	80	4	△	○		○		○	○	○
2		○		就職セミナー	卒業後の進路選択を考える前段階として、日々の学生生活を有意義なものとする意識の高揚を目指す。特に、社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方を理解を深め、礼儀・マナーの修得、面接練習等を行う。	1年前期	20	1	△	○		○		○	○	○
3			○	企業研究	就職活動に伴う企業研究として、実際に活躍している各業界を代表する人事担当者より、会社の特徴や仕事内容、採用試験、企業の求める人物像などについて講演をしていただき、実際の仕事概要等を深く理解することにより、今後の就職活動に向けて自ら考え、行動する力を養成する。	1年後期	20	1	△	○		○		○	○	○
4			○	就職ゼミナールⅡ	卒業後の進路選択を行う段階として、進むべき業界及び職種の研究を行う。また、面接試験演習やグループディスカッションを通して、どのように発言すれば趣旨を伝えることができるのかなどの伝達方法や表現方法について学習する。	2年前期	80	4	△	○		○		○		
5			○	ビジネスマナー	ビジネスマナーを中心に、気遣い・気働きを通したコミュニケーション力・交渉力・問題解決能力の重要性を学び、社会人として必要な社会常識について学習する。	2年前期	80	4	△	○		○		○	○	○
6	○			ハードウェアⅠ	コンピュータで扱われる数値や文字の取り扱い、コンピュータを構成する各種装置、ネットワーク技術の基本事項について学習する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
7	○			ソフトウェアⅠ	各種ソフトウェア、データベース、データ構造とアルゴリズムの基本事項について学習する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
8	○			経営戦略	代表的な経営情報分析手法について学習し、経営戦略に関する基本的な考え方を理解する。ITが企業の経営戦略に重要な影響を与えることの意義を説明できることを目標とする。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
9	○			テクノロジーⅠ	テクノロジー分野であるハードウェア、情報処理システム、ソフトウェア、データベースなどの分野に関して、基本的な知識を修得するための講義・演習を行う。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
10	○			テクノロジーⅡ	テクノロジー分野であるネットワーク、セキュリティ、データ構造とアルゴリズムなどの分野に関して、基本的な知識を修得するための講義・演習を行う。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
11	○			ストラテジ／マネジメント	ストラテジ・マネジメント分野である企業と法務、経営戦略、情報システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査と内部統制などの分野に関して、基本的な知識を修得するための講義・演習を行う。	1年前期	40	2	△	○		○		○		
12		○		科目A試験対策	基本情報講座の修了認定試験受験にあたり必要となるテクノロジー、マネジメント、ストラテジの分野の問題演習を行い、知識の定着を図る。	1年前期	40	2	△	○		○		○		
13		○		システム開発Ⅰ	企業と連携をしながら、システム開発全体の理解や、アルゴリズム、データベースなど知識を修得する。また、グループ学習を通じて、コミュニケーション能力を向上させる。	1年後期	40	2	△	○		○		○	○	○
14		○		システム開発Ⅱ	企業と連携して、IT業界やシステムエンジニアの仕事について理解する。また、グループ学習を通じて、コミュニケーション能力を向上させる。	1年後期	40	2	△	○		○		○	○	○
15		○		ホームページ作成Ⅰ	Webクリエイター能力認定試験スタンダードレベルのHTML及びCSSの正しいコードを記述し、基礎的なWebサイトを製作できる能力を養う。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
16		○		表計算プログラミング	Excel操作を通してマクロを理解し、基礎的なVBAプログラミングができるようにする。マクロの基礎知識とVBAプログラミングの基本文法に関する講義・演習を行う。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
17		○		J a v a	Java言語の文法及び基本構造についてプログラミングを行いながら学習する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		

18		○		J a v a 演習	J a v a 言語の実践的な使い方についてプログラミングを行いながら学習する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
19		○		P y t h o n I	Pythonによる基本的なプログラミングを行う。また、Javaとの違いを確認しながらPython特有の表現を中心に講義、演習を行う。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
20		○		P y t h o n 演習	Pythonを用いてGUIアプリ作成やプログラミングの基礎を身につける。また、GUIアプリ作成やプログラミングを通じて、Pythonのプログラミング能力を高める。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
21		○		C言語	C言語の文法及び基本構造についてプログラミングを行いながら学習する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
22		○		表計算演習	ビジネスソフトであるMicrosoft Excelの基本機能と操作方法を学習し、集計表やグラフの作成ができるようにする。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
23		○		コンピュータシステム I	コンピュータシステムにおける理論や技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを総合的に活用できる知識を身につけることを目標とする。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
24		○		情報セキュリティマネジメント I	情報セキュリティ技術と情報セキュリティ管理に関する知識を学習し、基本的な知識を習得する。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
25		○		オブジェクト指向基礎	オブジェクト指向の基本概念を理解し、オブジェクト指向の仕組みや擬似言語での表現方法について学ぶ。	1年前期	40	2	△	○		○		○		
26		○		ハードウェア演習 I	ハードウェア及びコンピュータシステム分野に関する仕組みや計算方法について、演習を通して身につける。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
27		○		ソフトウェア演習 I	ソフトウェア分野に関する仕組みや計算方法についての知識を、演習を通して身につける。	1年前期	80	4	△	○		○		○		
28		○		総合演習 I	アルゴリズムとプログラミング分野及び情報セキュリティ分野において、問題演習を通じて実践力を修得する。	1年後期	40	2	△	○		○		○		
29		○		ハードウェア II	ハードウェア関連技術、アーキテクチャ、パフォーマンスについて学習する。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
30		○		ソフトウェア II	各種ソフトウェア、データベース、データ構造とアルゴリズムについて、応用知識を身につける。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
31		○		T C P / I P 演習	セキュリティ実習では、疑似環境でセキュリティ攻撃を行うことで脅威を体験的に理解する。ネットワーク実習では、Cisco機器にネットワークの設定を行うことで、実務能力を習得することを目標とする。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
32		○		J a v a S c r i p t	インタラクティブなWebサイトを制作するための基礎的な知識と技術を身につけるため、JavaScriptの基本文法、jQueryなどの基礎知識に関する講義・演習を行う。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
33		○		情報セキュリティマネジメント II	ネットワークシステムやインターネットを利用するための、監視技術、防御技術、LANとPCのセキュリティ対策を中心に情報セキュリティについての知識を理解することを目標とする。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
34		○		情報システム I	さまざまな業界における情報システムの設計・開発・構築・運用について、各種の問題を演習し、開発者と利用者の両面で効率的に活用できる技術を身につけることを目標とする。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
35		○		情報システム II	さまざまな業界における情報システムの設計・開発・構築・運用について、各種の問題を演習し、開発者と利用者の両面で効率的に活用できる応用的な技術を身につけることを目標とする。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
36		○		情報管理 I	コンピュータシステムにおけるIT用語や理論・技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを総合的に活用できる知識を身につけることを目標とする。	1年後期	40	2	△	○		○		○		
37		○		情報管理 II	コンピュータシステムにおけるIT用語や理論・技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを応用的に活用できる知識を身につけることを目標とする。	1年後期	40	2	△	○		○		○		
38		○		アルゴリズム	コンピュータでデータを処理するためのデータ構造と、それらに関連する各種アルゴリズムについて基本的な知識の修得を図る。	1年後期	80	4	△	○		○		○		
39		○		H T M L / C S S	HTML、CSSを使ってユーザ体験を考慮したWebコンテンツを設計・制作できるスキルや、スマートフォンや組み込み機器など、ブラウザが利用可能な様々なデバイスに対応したコンテンツを制作できるスキルや知識を身に付けるための講義・演習を行う。	1年後期	40	2	△	○		○		○		

40		○	情報処理技術者試験対策Ⅰ	プログラム、アルゴリズム分野において、演習を通じて実践力を修得し、基本情報技術者試験の対策を実施する。	1年後期	80	4	△	○		○		○			
41		○	情報処理技術者試験対策Ⅱ	情報セキュリティ技術と情報セキュリティ管理に関する基本的な知識を学習し、基本情報技術者試験のセキュリティ分野対策を実施する。	1年後期	80	4	△	○		○		○			
42		○	L i n u x	LinuxOSの基礎的な操作・設定方法を理解し、実践できるようになるため、LinuxOSのコマンドや設定ファイルの記述方法に関する講義・演習を行う。	2年前期	40	2	△	○		○		○			
43		○	文書表現演習	Microsoft Wordの基本機能と操作方法を講義・演習し、文書作成と管理ができるようにする。	2年前期	40	2	△	○		○		○			
44		○	Webデザイン基礎	基礎的なWebサイトを制作できるように、HTMLとCSS、Webデザインに関する基本的な知識と技術に関する講義・演習を行う。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
45		○	CG演習	デジタル画像を扱うためのアプリケーションであるPhotoshopとIllustratorについて、その操作とデザインワークを学ぶ。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
46		○	Webプログラミング	クラウドIDEであるMonacaを利用して、HTML5/CSS3/JavaScriptによるモバイルアプリケーションの開発技術を身につける。Monacaの使用方法和、カメラやGPSなどを利用したネイティブアプリの作成に関する講義・演習を行う。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
47		○	PythonⅡ	Pythonによる基本的なプログラミングを行う。また、Javaとの違いを確認しながらPython特有の表現を中心に講義、演習を行う。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
48		○	機械学習	機械学習の概要を理解し、機械学習で必要となるデータ分析の方法を理解する。また、教師あり学習の基本的な考え方を身に付け、NumPy・Matplotlib・sklearnといったライブラリを使いこなせるようにする。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
49		○	ディープラーニング	ディープラーニングの基本的な仕組みを理解し、CNNについても理解を深める。また、Kerasを用いて自分でディープラーニングを用いたモデル構築を行えるようにする。	2年前期	80	4	△	○		○		○			
50		○	ビジネスAI	MicrosoftAzureを用いてAutoML/デザイナーを利用したノンプログラミングの手法を身に付ける。EXCELのツールを利用した回帰分析手法を学ぶ。また、PowerAppsを利用してAIアプリを作成する。	2年後期	80	4	△	○		○		○			
51		○	プレゼンテーション演習	PowerPointの基本操作について習熟し、簡単なスライド・図形の作成及びプレゼンテーションができるようにする。	2年後期	40	2	△	○		○		○			
52		○	ホームページ作成Ⅱ	Webクリエイター能力認定試験エキスパートレベルのHTML及びCSSの正しいコードを記述し、高度なWebサイトを製作できる能力を養う。	2年後期	80	4	△	○		○		○			

53		○		動画編集	動画編集ソフトを使って、企画から編集、出力までの一連の動画制作を実践する。基本操作から高度な編集技術、エフェクトやトランジションの活用まで習得し、映像表現の幅を広げる。課題制作を通して、ストーリー構成や演出の知識も深め、動画コンテンツ制作の即戦力となる人材を目指す。	2年後期	80	4	△	○		○		○				
54		○		Webデザイン演習	Googleアナリティクスを活用し、Webサイトの現状を把握し、改善策を立案するスキルを習得する。ユーザー行動の分析、目標設定、レポート作成など、データに基づいたWebサイト改善を実践。課題を通して、Webマーケティングの基礎知識も深め、データドリブンなWebサイト運用を担う即戦力を目指す。	2年後期	40	2	△	○		○		○				
55		○		情報分析演習	Excelの操作を効率的に進める機能とExcelを利用したデータ整理および分析の方法を習得し、表やグラフを駆使した的確な報告書の作成とプレゼンを実践する。	2年後期	80	4	△	○		○		○		○	○	○
56		○		G検定対策	G検定の合格を目指すために、AI、機械学習の基礎知識を固める。AIの動向、歴史についても学び、AIの概観についても知識を深める。	2年後期	80	4	△	○		○		○				
57		○		エッジAI	エッジAI技術の基礎から応用までを習得し、デバイス上でAIを動作させる実践力を養う。センサーデータ解析、リアルタイム処理、省電力化など、エッジAI特有の課題に取り組み、IoT機器やロボットなどへの応用を学びます。課題制作を通して、エッジAI開発の即戦力を目指します。	2年後期	80	4	△	○		○		○				
58		○		AI演習	機械学習・ディープラーニングの基礎知識を基に、Pythonを用いて実践的なAI開発に取り組みます。データの前処理、モデル構築、評価、応用までの一連の流れを習得し、課題解決型の演習を通して、実社会で役立つAI開発スキルを磨きます。	2年後期	40	2	△	○		○		○				
59		○		コンピュータシステムⅡ	コンピュータシステムにおける理論や技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを応用的に活用できる知識を身につけることを目標とする。	2年前期	80	4	△	○		○		○				
60		○		総合演習Ⅱ	さまざまな業界における情報システムの設計・開発・構築・運用について、各種の事例を分析し、開発者と利用者の両面で効率的に活用できる技術を身につけることを目標に応用的な問題演習を行う。	2年前期	40	2	△	○		○		○				
61		○		ハードウェアⅢ	アーキテクチャ、パフォーマンス、ネットワーク技術、セキュリティ技術について応用知識を学習する。	2年前期	80	4	△	○		○		○				
62		○		ソフトウェアⅢ	ソフトウェア全般、データ構造とアルゴリズム、ネットワークアーキテクチャ、各種のセキュリティ技術について、応用知識を身につける。	2年前期	80	4	△	○		○		○				
63		○		情報管理Ⅲ	コンピュータシステムにおけるIT用語や理論・技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを高度に活用できる知識を身につけることを目標とする。	2年前期	40	2	△	○		○		○				
64		○		コンピュータシステムⅢ	コンピュータシステムにおける理論や技術を理解し、業務改善におけるシステム化にて、これらを高度に活用できる知識を身につけることを目標とする。	2年後期	80	4	△	○		○		○				
65		○		総合演習Ⅲ	さまざまな業界における情報システムの設計・開発・構築・運用について、各種の事例を分析し、開発者と利用者の両面で効率的に活用できる技術を身につけることを目標に高度な問題演習を行う。	2年後期	40	2	△	○		○		○				
66		○		システム開発演習Ⅰ	企業と連携しながら、システムを開発するために必要となる基本的なドキュメント、ソースコードの作成方法について必要となる知識を習得する。	2年後期	40	2	△	○		○		○		○	○	○
67		○		システム開発演習Ⅱ	企業と連携しながら、ドキュメントの作成やJava言語を用いたソースコードを作成、テスト、レビューを行うことで、より実践的にシステム開発の一連の流れや必要となる知識を習得する。	2年後期	40	2	△	○		○		○		○	○	○

68		○		卒業システム 開発	本学園での学習の集大成として、グループワークによるシステム構築実習を行う。企業と連携してユーザ（指導者）から要求を聞き出し、企画書や設計書などのドキュメント作成から、開発、テストまでを行い、ユーザに対してプレゼンテーションを行う。	2年後期	160	8	△	○		○		○	○	○
69		○		Webアプリ 開発	基礎的なWebアプリケーション開発技術を身につけるため、PythonによるWebアプリケーション開発フレームワークであるDjangoの基本的な機能に関する講義・演習を行う。	2年後期	80	4	△	○		○		○		
70		○		モバイルアプリ 開発	monacaやニフクラmobilebackendを利用してクラウドデータベースを利用した実践的なモバイルアプリの開発技術を、様々なソリューションを提供している企業と連携し、身につけるための講義・演習を行う。	2年後期	80	4	△	○		○		○	○	○
71		○		卒業制作	アプリケーション開発のプロジェクトチームを発足して、Webまたはモバイルアプリケーション開発を行う。ペアプログラミング、バージョン管理、進捗管理などの手法を取り入れてプロジェクトを進める。	2年後期	160	8	△	○		○		○	○	○
合計					71	科目	246						単位（単位時間）			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になる		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：コース選択により履修科目が決定する。		1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。